

わららアート まつり

越後の伝説が蘇る

新潟市西蒲区松野尾1番地

うわせきがた

上堰瀉公園

2024年8月31日(土) ~ 10月31日(木)

わらアートまつりにお越しいただき、誠にありがとうございます。

新潟県の稲わらを用いて、五体の像を制作しました。

例年参加している武蔵野美術大学の学生に加え、今年は東北芸術工科大学の学生も制作に携わっています。

地域のみなさまのご協力により開催できますことを、心から感謝申し上げます。

西蒲区ホームページ



わらアート公式



主催：新潟市 協力：武蔵野美術大学 WARABI / 東北芸術工大 / 内山看板
お問い合わせ：新潟市西蒲区産業観光課「わらアートまつり事業」
電話番号：0256-72-8454 / 0256-73-1000 (まつり期間中)

らいじん 雷神

新潟の大地には、神々が愛する芳醇な果実が育つ。いちじく、いちご、葡萄…豊かな自然と独特な気候が織りなすこの地で、香り高いワインが誕生するのも納得だ。

雷神が握りしめた葡萄は、天地の恵みを受けて育った証。芳醇な恵みと自然の力強さを表現した。

他者を取り込み、一緒に実を結ぶ葡萄のように、私たちも一丸となって新潟の魅力を伝えたい。



ふうじん 風神

日本海の暖流とシベリア大陸からの冷たい風が出会い、越後には六つの花が舞う。稲妻、雪解けの水、寒暖差、そして季節風。

そんな、神々に愛される土地では、多くの農作物が育っており、風神もこの土地に魅了された一柱である。

彼が新潟の酒を堪能し、空いた瓶に背をもたれ、新潟の人々とにこやかに挨拶を交わしている様子を表現した。



大蛇 だいじや

伝統的な祭りの題材として、大蛇の話は地域に深く根付いている。

通常、洪水を起こし人々を困らせる悪役として、大蛇は描かれる。しかし、水を司る大きな力を利用して、新潟を水害から守る存在に変わってほしいという願いを込め、制作した。



猫又 ねこまた

火車、猫又、猫の恩返し、化け猫…

新潟には猫にまつわる話が多く存在する。中には人を襲うものも存在するが、それも全て、「愛情を持って接してくれた者には義理堅く、そうでない者には獲物として容赦なく」という性格から生まれた話だ。

この猫又が、この先新潟で暮らす人々を守ってくれる、そんな願いを込めながら制作した。



霊雁 れいがん

岩室温泉は「霊雁の湯」とも呼ばれている。男の夢枕に白髪の翁が立ち、そのお告げ通りにこの地を探すと、一羽の傷ついた雁が泉流に浴して傷を癒していた。男はその泉を「霊雁の湯」と名付け、人々は泉の恩恵に感謝し、この地は栄えていった…という話は今もこの地で語り継がれている。

この話をもとに、向かって左側の翼の怪我を治している姿を想定し、制作した。

